

日本予防医学会・メール配信

NO. 15. 2011. 5.26

日本予防医学会 会員の皆様へ、

日本予防医学会・副理事長の荻野景規です。

このたびの東日本大震災において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、
ご遺族の皆様へ深くお悔やみを申し上げますとともに、
被害にあわれた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

なお地震の影響により、
日本予防医学会の予防医学指導士講習会の開催等に関しまして、
ご迷惑をおかけしております。伏してお詫び申し上げます。

決定次第、お知らせいたします。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

コラム——公衆衛生の学窓から——

どう読む？健康情報

さて5月12日に岡山大学大学院公衆衛生学教室の定例セミナーで、
4月に被災地入りした
杉原智始 社会人大学院生・日本予防医学会会員の
報告がありました。

「そこで見た壮絶な光景は、
生々しく脳裏にやきつき、
現在もいろいろな思いが錯綜する」とのこと。
「自分の報告が被災地復興の一助になれば」と
レポートを提出してくれましたので、ここに
掲載させていただきます。

報 告

東日本大震災保健支援に派遣されて

杉原智始

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野

(平成23年5月9日受理)

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に岡山県保健支援チームの連絡調整員として岩手県大船渡市に派遣されましたので、報告します。

はじめに

この度発生した東日本大地震・大津波により、避難所生活を余儀なくされている被災者の多くは住居、衣類等無くし、着の身着のまま、自分の身ひとつで避難しているうえ、近親者を行方不明または亡くしている。また、避難所生活の長期化が予想され、精神面のケアが必要であるため、厚生労働省は都道府県、市町村と協力して被災地へ、医師、保健師、栄養士を派遣している。

現地の状況

平成 23 年 4 月 7 日、医師、保健師 3 名と共に大阪伊丹空港から空路、岩手花巻空港に入り、前任者から引き継いだ車を運転して遠野市の宿泊所に向かった。宿泊所までの道沿いは地震の被害が無いように見えたが、夜 11 時 33 分震災後最大の震度 5 弱の余震に見舞われ、翌日夕方まで停電、電話不通による情報遮断を経験した。

翌日、岩手県大船渡合同庁舎で岩手県職員より注意事項の説明を受け、自身も被災者である保健師より、生き残った我々が復興していかなければいけないのです。もし大きな地震が発生した場合、人を助けようと思わないで、すぐ高い所まで逃げてください。人を助けようと思うと自分も死にます。人を助けようとした人は死んでいますと聞かされた後、

避難所となっている大船渡地区公民館、大船渡中学校体育館へと向かった。避難所へ向かう道路上の瓦礫は撤去されて、両脇に山積みされていたが、道路から少し奥の瓦礫は手つかずの状態であり、後で聞いた話によると、山積みされている瓦礫以外は遺体の確認が出来ていないそうである。

今回、私は連絡調整員として被災地に入ったため、避難所全体を見渡すことが出来、十分とは言えないが、医療、保健分野の人材は足りていたが、換気、掃除が出来ていない、トイレのタオルが何日間も交換されていない、消費期限も考えず差し入れの食品を枕元に保管する等、衛生面の管理が不十分であるため、避難所の衛生管理を行う人材が必要であると感じた。

まもなく仮設住宅が完成します。生活も少しは落ち着いてきますが、仮設入居後の生活に不安を持つ被災者が多いため、継続的な支援方法を考えていきたいと思っている

注) 4月上旬の状況であることにご留意下さい。
なお杉原智始氏作成の原レポートには、現地の写真が掲載されております。
日本予防医学会のHPに張り付けておりますのでそちらをご覧ください。

「今回は本当にいい経験をさせてもらいました」と
報告された杉原智始大学院生。
ご苦労様でした。

上記以外も、言葉にするにはむごくて悲惨すぎる現場の状況や、
今後予想される、きれいごとでは片付けられない問題点を報告してくれ、
メッセージだけ、募金だけの私を鞭打つ言葉となりました。

我々の日本という国の長期的な復興に向けて、
なにをすべきなのか、

地域に根ざした地元の医療介護福祉等従事者を、
どのように支援するのか、

再考の機会をもらいました。

さて
PTSD・トラウマの語句は、阪神淡路大震災時以降に
急速に一般人に、広まりました。が、

欧米に比較して日本ではPTSDになった人数が少ないそうです。(注)

専門家によりますと、日本では思いのほか、

大災害時の巨大な不安は家族・内輪で背負う、

悩み分散システムが機能していたそうです。

今回の大震災でも再確認したことは

「大自然の威力の前では、人と人との助け合いや、

社会との繋がりがどれほど生きる力をくれるか」です。

反対に、一瞬にして無に帰す所有物の映像は、

所有リスクを物語ります。

要は自分だけが金持ち物持ちになっても、所詮空しいことの示唆です。

(ひがみではなく。)

ところで、阪神淡路大震災と東日本大震災の相違点の1つは、放射能汚染です。

門外漢の私であっても連日の放射能報道は気になります。

将来の日本人のがん発生率はいかに？ 発生分布は？

世界中が注視しています。

BBCのサイトでも、日本の被災地関連のニュースはとっくに無いですが、

F u k u s h i m a の文字のない日はありません。

以下は気になる放射能報道です。

5/11 神奈川県南足柄市の足柄茶 暫定基準値超550～570ベクレルのセシウム検出

5/18 母乳の放射性物質濃度の調査 市民団体の調査では放射性セシウムを検出
母子支援ネットワーク正式HP母乳調査
5人の母乳から、1キロあたり最大10・5ベクレルの放射性セシウムを検出

5/19 ワカメから基準値を超える放射性セシウム
ワカメ 放射性セシウム 1200Bq/kg 福島県HPより

5/21 茨城県でお茶を生産している10の市町村で生葉のサンプリング測定
全て暫定基準値の500Bq/kgを超える放射性セシウムが検出(八千代町のお茶以外)

5/23 底魚ヒラメの放射性セシウム

●茨城県 農林水産部のH23.5.21のHPより作成
暫定規制値(放射性ヨウ素 2000Bq/kg 放射性セシウム 500Bq/kg)

魚貝類の分析結果について 底魚の放射能濃度

上段：放射性ヨウ素 下段：放射性セシウム (Bq/kg)

		3/31	4/21	4/29	5/6	5/16	5/18
日立市沖	クロメバル						2
							85

	ヒラメ	13	不検出		不検出	2	不検出
		不検出	23		15	69	90
ひたちなか市沖	ヒラメ		不検出	不検出	不検出	不検出	
			7	10	26	57	
鹿嶋市沖	スズキ		4				不検出
			48				50

●福島県 底魚ヒラメの放射性セシウム (Bq/kg)

いわき市	4/22	82
いわき市	4/26	134
いわき市	4/26	116
いわき市	5/16	300
いわき市C	5/9	350
いわき市D	5/9	207
いわき市E	5/9	197

<http://yasaikensa.cloudapp.net/>

財団法人 食品流通構造改善促進機構より

余談ですが、
勝川俊雄准教授/三重大学 生物資源学部のサイトで
魚好きの日本人に役立つ、
より安心な魚の食べ方の一つを知ることができます。

(注) 京都大学防災研究所 林春男グループ
阪神・淡路大震災後大規模サンプリング調査より

悩み心配事はだれに相談したか?の問いに、

精神科医・カウンセラーと答えた被災者は、回答者の約3%。

他の大多数は、家族、親せき、友人等に相談した。

ここまで読んでいただき、
心より感謝いたします。

●日本予防医学会のホームページ

<http://www.yobou-igaku.org/aim/index.html>

●配信済みのメールマガジンは、日本予防医学会のホームページで、
ご覧になることができます。

●配信メール先を変更する場合、
配信解除は、以下からお願いします。

public02@md.okayama-u.ac.jp

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
公衆衛生学分野

日本予防医学会 事務局 荻野景規

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

TEL : 086-235-7184 FAX:086-226-0715

e-mail : public02@md.okayama-u.ac.jp